滞在先で「暮らし」体験

神宮　美憂（法4）

ベトナム研修旅行は、私にとって初めてづくしのものとなりました。初めての外国、ベトナム、ベトナム語……。驚きにあふれ、何よりも現地の学生の皆さん（ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学＝国際交流協定校）に助けられた10日間でした。

ハノイ市内見学では、さまざまな場所に行きました。文廟、チャンコック寺、ホーチミン廟、民俗学博物館、旧市街……。

チャンコック寺では、お供え物の後始末について、日本とベトナムの異なる点を教えてもらいました。お供えをしたものは、後で食べてもいいというのは同じなのですが、唯一食べてはいけない果物があるそうです。それはバナナのような果物で、仏陀の手のような形をしています。だからなのか、供えた後は処分してしまうそうで、もったいないなと思いました。

旧市街ではリアルなベトナムを体感しました。バイクが次々と通っていく中を友だちと腕を組んで道を渡ったり、買い物の値切り交渉を見たりしました。また、ベトナム人はフレンドリーだと思いました。道を聞けばすぐ答えてくれるし、外国人にはゆっくりと話してくれます。

ホームステイではお母さんと一緒に春巻きを作ったり、ホームステイ先の子どもの友達が持ってきてくれたおかずを一緒に食べたりして、ベトナム人の暮らしを体験することができました。

夜はカフェに行って話したり、日本語で発表する資料のチェックを手伝ったりもしました。ホームステイをするまではベトナム人の暮らしは想像できませんでしたが、私たちと少しも変わらないと思いました。

ホームステイは一日だけでしたが、ベトナム人家族の温かさを実感することができました。あらためてこの研修旅行を振り返ってみて思うことは、やはり何事も自分の目で見て経験することが大切だということです。私はこの企画を母に勧められ、参加しました。最初は緊張と不安がいっぱいでしたが、日本に帰ってきて、これからはもっと外国に行って新しい発見をしたいと思うようになりました。

母、引率してくださった先生方、事前研修で協力してくれた2人のベトナム人留学生、一緒に参加した専修大学生、そしてハノイの大学生の皆さんすべてに感謝し、また新たに日本に来る留学生の皆さんに、今度は私たちがおもてなしをしたいと思います。

▼ ベトナムの民族衣装アオザイを着た参加者。左端が宇田さん、左から４人目が神宮さん

●学生部セミナー「ベトナムへ行こう」

学生部セミナー「ベトナムへ行こう」と佐竹弘靖教養ゼミの「シルクロードを歩く」研修旅行に参加した学生4人の寄稿を紹介しよう。

▽学生部セミナー「ベトナムへ行こう」3月1日～10日、ベトナム・ハノイなどを訪問。高原隆明商学部教授ほか学生7人参加。

▽「シルクロードを歩く」1月30日～2月9日、ウズベキスタンのタシケント、サマルカンド、ヒヴァ、ブハラなどを訪問。佐竹弘靖ネットワーク情報学部教授ら12人参加。

寄稿

▶ ハノイのキャンパスで

経済成長の活気　実感

宇田　智（経営3）

今回のセミナーでは、ベトナムの文化だけでなく、以前から関心のあったベトナムの経済情勢について理解を深めることを心がけました。

近年、東南アジア各国の発展が目覚ましく、中でもベトナムの経済成長は著しいものがあります。実際に現地を訪れて感じたことは、大手外資を含む小売店の多さです。ベトナムの小売り形態には、個人経営の店舗やスーパーマーケット、専門店、市場、移動販売などさまざまなものがありました。

どの店舗も人であふれ、非常に活気がありました。また、ベトナムでは高齢者よりも若い人の比率が高かったように思えます。購買意欲の高い若年層が多いということが、流動的なお金の動きを生み、結果として消費市場の高成長化につながっていると考えられます。また、物価や人件費の水準が低いためか、外資系企業の参入も多く見受けられました。特に日系企業では、自動車・オートバイや家電メーカーなどが多くあり、印象的でした。

その半面、国内のインフラが十分に整備されていないように思えました。道路の道幅は広く、信号もほとんどないので基本的にはスムーズに行き来できますが、夕方の帰宅ラッシュの時間には帰路につく車や学校帰りの子どもを迎えに行くオートバイなどで非常に混雑しています。オートバイが歩道を走っている光景を何度も目にしました。

また、日本ではオートバイや原付きの後ろに載せる荷物の大きさに制限がありますが、ベトナムでは、どんなに大きくてもオートバイに載せて運んでいました。そのせいか、トラックをあまり見かけません。

効率よい物流が困難だと、高い物流コストが発生するため、商品の価格に反映され、小売産業の停滞を招く可能性があると思います。逆に言えば、インフラ整備を進めることで、より一層経済成長が見込めると思います。

今回の学生部セミナーは、私に新しい出会いや発見を与えてくれました。また、今まで以上に物事を広い視野で捉えられるようになりました。ベトナムで有意義な時間を過ごすことができ、参加して本当によかったと感じています。

厳かな儀式に見入る

長峰　麻美（経済4）

佐竹ゼミナールは、シルクロードの文化を現地で学ぶことを目的とした教養ゼミナールです。1月30日から2月9日までの11日間、シルクロードの中心地ウズベキスタンへ行ってきました。

最大のイベントは現地の大学生（タシケント大学）との交流会です。ウズベキスタンの大学生は私たちを快く受け入れてくれて、歓迎パーティーを開いてくれました。そして彼らは多くの素晴らしい体験を私たちにさせてくれました。その中でも印象に残ったのは、偶然の出来事でしたがイスラム教徒がお祈りするところを見せてくれたことです。厳かで神秘的な美しいモザイクタイルの空間で行われるそれは、普段宗教に関わる機会の少ない私にはドッキリする体験で、張りつめた空気の中で見入っていたことを覚えています。今回の旅は興味のある分野に、より深く踏み込めた素晴らしい経験でした。

●佐竹ゼミ「シルクロードを歩く」

▲ 前列中央が長峰さん。２列目左から４人目が洲崎さん＝サマルカンドのレギスタン広場で

溶け合う異文化同士

洲崎　義人（経済4）

シルクロードとは何か。一般的には、中国からヨーロッパまで絹が運ばれたことによる歴史的な交易路のことを指します。私たちはオアシスの道と呼ばれる交易路の中心、ウズベキスタンを訪問しました。

シルクロードの交差点ともいわれるサマルカンドのレギスタン広場はとても神秘的な所でした。14世紀には活気ある市場が開かれていましたが、快く思わなかった君主が市場をやめさせるために周りに神学校を3つ建てたといいます。

しかし、今やその神学校もお土産屋と化していました。

私はウズベキスタンを訪問し、国民に外国人への抵抗感がないと感じました。シルクロードほど文化、人種、宗教などが混在してきた場所はないため、この地では異文化同士のコミュニケーションが当たり前なのかもしれない。

私たちも異国で人々と触れ合うことに新鮮さや楽しさを見いだし、気づけばウズベキスタンに染まっていました。